

第1章：見学

後宮に入って、三日が経った。

李雪蘭は、自分に与えられた部屋にいた。

かつて大陸最強の呼び声高き女將軍であった彼女は、
今や囚われの身である。

そして――老王の征服を受け、その肉体を犯された。

豪華な部屋。

絹の寝台。

調度品。

だが――

雪蘭の心は、晴れなかった。

晴れるはずもない。彼女の心は未だ戦場にあるが、思いとは裏腹に肉体は
囚われている。

この部屋の豪華さは全て――彼女が女としての矜持を差し出し、老王とい
う雄の獣性に屈した証そのものだった。

(私は.....ここにいる.....)

雪蘭は、窓の外を見る。

高い壁。

兵士たち。

逃げられない。

(くそ.....)

雪蘭の拳が、握られる。

その時――

扉がノックされた。

「雪蘭様、失礼いたします」

梅香の声。

扉が開く。

梅香が、入ってくる。

「老王様が、お呼びです」

「……っ」

雪蘭の身体が、強張る。

(また……)

「こちらへ」

梅香に導かれ、雪蘭は部屋を出る。

廊下を歩く。

何歩めかの時に、下腹がズクンと疼くのを感じた。

(……っ！！)

濃密な匂いと体温がフラッシュバックする。

自らの国を滅ぼした、憎き男に鳴かされ、無様に達したあの夜。



唇を噛んだ。

やがて――

大きな扉の前に辿り着く。

だが――

いつもの老王の部屋ではない。

「.....ここは.....？」

「老王様の、特別な部屋です」

梅香は、静かに答える。

扉が開く。

中は――

広い部屋だった。

だが、いつもの豪華な部屋とは、違う。

部屋の中央に、台座。

その上に、何かの器具。

壁には、鎖。

縄。

鞭。

様々な道具が、掛けられている。

（これは……）

雪蘭の顔が、青くなる。

そして――

部屋の奥に、椅子が並んでいる。

十数脚。

その椅子に――

女たちが座っていた。

後宮の女たち。

全員、豪華な衣装を着ている。

だが――

その目は、部屋の中央の台座を見ている。

「.....っ」

雪蘭の身体が、震える。

「こちらへ」

梅香が、雪蘭を椅子に導く。

雪蘭は、椅子に座る。

他の女たちの、隣に。

女たちは、雪蘭を一瞥する。

だが――

何も言わない。

ただ、静かに台座を見ている。

その時――

扉が開いた。

老王が、入ってくる。

そして――

老王の後ろに、二人の兵士。

兵士たちは――

一人の女を、連れている。

目隠しをされ、手を縛られている。